

天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839

Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

校長 山中 喜宏

全国学力・学習状況調査の結果について

4月23日(木)(英語は4月21日(火)・28日(火)、生徒質問紙は21日(火))に、3年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果と分析(概要)と今後の取組についてお知らせします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを考慮しつつ、ご家庭のご協力のもと、今後の本校のこどもたちの学力向上、非認知能力の育成等の取組に生かしていきます。

Ⅰ 教科に関する調査について

(1) 各教科の結果

	国語	数学	英語
本校	63	54	501
鈴鹿市	60	52	482
三重県	62	56	494
全国	63.9	57.0	499

※ 国語、数学は平均正答率(%)

なお、「本校」「鈴鹿市」「三重県」の平均正答率の小数点以下は公表されていません。

※ 英語については平均IRTスコアを表示

なお、IRTスコアとは、生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度や測定精度)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論。500を基準値とする。

(2) 教科に関する調査問題別の「強み」と「弱み」

○：強み(平均正答率が75%以上、または全国比 +5 以上)

●：弱み(平均正答率が25%未満、または全国比 -5 以下)

【国 語】

- 単語の類別について理解している。本校:75.8% (全国:70.2%)
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。本校:44.7% (全国:38.9%)
- 単語の活用について理解している。本校:79.5% (全国:85.4%)
- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができる。本校:28.0% (全国:35.2%)
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。本校:62.1% (全国:68.7%)

【数 学】

- 反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができる。本校:65.2% (全国:55.3%)
- 2直線が平行になるための条件を理解している。本校:36.4% (全国:49.1%)
- 事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができる。本校:58.3% (全国:65.0%)
- 具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができる。本校:56.8% (全国:62.5%)
- 累積度数の意味を理解している。本校:37.1% (全国:46.0%)
- 箱ひげ図と四分位数の対応について理解している。本校:68.2% (全国:75.8%)

【英 語】

- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。本校:38.7% (全国:27.8%)
- 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。本校:71.9% (全国:78.5%)
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。本校:67.6% (全国:76.0%)
- 社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができる。

本校:48.1% (全国:55.6%)

- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。本校:50.0% (全国:63.8%)
- 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。本校:41.9% (全国:47.5%)
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。本校:35.3% (全国:44.0%)

(3) 教科に関する問題形式別の「強み」と「弱み」

【国 語】

- 「短答式」「記述式」の問題形式では、自校の正答率のほとんどが県・全国の正答率を大きく上回っていた。
- 「思考・判断・表現」の観点となる問題が得意な生徒が多い結果となった。その中でも特に、「書くこと」の分野の平均正答率が高くなっている。
- 記述問題における自校の無回答率は9.1%と低く、難しい問題にも諦めずに粘り強く取り組むことができた。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題の正答率が低い。言葉や語彙に関する問題に対して、単純に正しい答えを選択するということもできていない生徒が多いことから、知識不足であることが窺える。

【数 学】

- 入試に頻出の単元であり、重要である「関数」の領域でやや強い傾向がみられた。
- 数と式の応用問題と、データの活用の領域が弱いことがわかる。データからも読み取る力や情報活用能力が重要であることから、改善が必要である。

【英 語】

- 「記述式」の問題では、語数が少ない生徒が県平均・全国平均と比較しても少ない。
- 無回答率は自校が6.5%に対して、県が16.4%、全国が14.2%となっており、無回答率が非常に低い。日頃からライティング活動やふりかえりでは「間違えてもいいから書こうとする姿勢」が見られ、その成果と考えられる。
- 「選択式」の問題でも、不正解ではあるが最後の2択まで絞って間違えている生徒の割合が非常に高い。大まかな概要をつかむことのできる能力は身につけている。
- 多くの情報を整理して、適切なものを選ぶ問題が弱い。
- 11①②[文法]の問いにおいて、現在形や現在進行形、完了形などを用いて回答している生徒が非常に多い。時制の感覚がまだ養われていない、あるいはgoの過去形がwentであることを理解できていない可能性がある。

2 生徒質問紙より

児童生徒質問紙は、児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活の諸側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境や授業等の教育活動などへの問いがあります。以下に、本校の結果と特徴をまとめました。

【家庭生活(生活習慣、家の人との会話)に関すること】

	本校	鈴鹿市	三重県	全国	全国との比較
朝食を毎日食べている	93.8	89.1	90.7	90.9	+2.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	89.2	79.2	81.7	80.5	+8.7
毎日同じ時刻に起きている	93.8	91.3	92.7	92.4	+1.4
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等(以下、「スマートフォン等」)でSNSや動画視聴などをしますか(スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く)【2時間以上】	68.3	77.7	78.0	74.9	-6.6

※ 数値は、各質問に「している」「どちらかといえばしている」と回答した割合

- 朝食を毎日食べ、同じ時間に就寝、起床している生徒の割合が多いことから、規則正しい生活を送っている生徒が多いと推察される。
- スマートフォンやタブレット等を使用して2時間以上SNSや動画視聴等を行っている生徒の割合が全国平均と比較すると低い。

【豊かな人間性(自己肯定感、社会への関心等)や非認知能力(やりぬく力や自制心)に関すること】

	本校	鈴鹿市	三重県	全国	全国との比較
自分には、よいところがあると思いますか	89.9	81.4	84.1	84.0	+5.9
将来の夢や目標を持っていますか	79.9	68.8	68.4	67.6	+12.3
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.8	89.0	90.7	90.8	+3.0
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6	95.1	95.4	95.1	+2.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	99.2	95.2	96.2	95.9	+3.3
学校に行くのは楽しいと思いますが	95.4	81.1	85.8	85.4	+10.0
友だち関係に満足していますか	93.0	87.2	91.1	91.2	+1.8
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	95.4	89.6	91.7	91.0	+4.4
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	92.2	78.5	79.7	78.2	+14.0
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.7	73.6	74.3	72.3	+11.4
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	89.2	75.2	78.4	77.8	+11.4

※数値は、各質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合(%)

- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめはどんな理由があっても行ってはいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が90%以上となった。このことから非認知能力のうち「社会性」の高さがうかがえる。
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」「自分にはよいところがあると思う」の質問に対してもおよそ90%の生徒が肯定的な回答をしていることから、非認知能力の「やりぬく力」、「自制心」、「自己肯定感」の高さもうかがえる。
- 「将来の夢や目標を持っている」の質問に、79.9%の生徒が肯定的な回答をしているものの、他の質問項目の肯定的回答よりは低い。

【学習習慣(家庭学習や自主学習)に関すること】

	本校	鈴鹿市	三重県	全国	全国との比較
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】	65.9	54.5	61.7	61.6	+4.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】	57.3	41.0	48.9	52.5	+4.8
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)【1時間以上】	14.8	14.7	17.0	18.0	-3.2

- 家庭学習の時間に関して、平日1時間以上実施している生徒の割合が国・県より高いものの65.9%である。2時間以上と回答している生徒の割合は、県は28.4%、国は30.1%に対して、本校の生徒は16.3%である。
学校が休みの日の家庭学習の時間に関しても、同様に国・県より高いものの57.3%であり、2時間以上と回答している生徒の割合は、県26.4%、国29.9%に対して、本校は27.1%と県の回答率よりは高いものの、国の回答率よりは低い。
- 授業時間以外読書の時間については、1時間以上と回答した生徒の割合が国・県より低く、読書習慣が身につけていないことがうかがえる。

3 今回の結果から今後、取り組んでいくこと

(1) 学習面に関して

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
 - ・ 協働的に学ぶような課題（協働課題の設定、協働的で深い学び）を持たせた授業づくりを行う。
 - ・ 個別最適な学びの充実を図るため、授業の中で自己選択や個人思考の場面や協働的な学びの後、自ら学びを振り返る場面等を設定する授業づくりを行う。
- 生徒が学びたい、より詳しく知りたいと思う課題を授業で設定するとともに、年度初めに確認をした『家庭学習のてびき』を再度意識させることで家庭学習を行う習慣を身につけさせる。
- 知識・技能の定着のため、小テストの実施や定期的に復習に取り組む課題の設定などを行う。
- 情報活用能力の向上の観点から、情報を適切に読み取り、思考・判断・表現に生かすための授業改善を行う。

(2) 学習習慣など、生活面に関して

- 「つながり」と「まなび」のある学校を目指して、承認活動やつづり作文、レジリエンス教育等を今後も継続して行う。
- 学校図書館の利用を促すとともに Chromebook を活用して電子書籍での読書も推奨することで、すこしでも読書量が確保でき、活字に触れる機会が増えるように生徒たちにはたらきかけていく。

自分の身は自分で守るとは？

9月1日(火)の始業式後、避難訓練を行いました。

事前学習では教室で非常時の避難経路や避難時の注意事項等の確認をした後、大地震発生とその後の火災発生を想定し、グラウンドに避難する訓練を行いました。その後、事後学習において、避難時の注意事項や避難器具の確認等と振り返りを行いました。

この夏は、熊本県での大地震、千葉県や富山県、石川県、福井県での豪雨と自然災害が頻発しました。自然災害がどこで起こってもおかしくない現在。「自分の身は自分で守る」という意識を普段から持ち、訓練も含め、備えることが大切です。

各ご家庭でも、災害への備えそしていざというときの避難・安否確認の方法など、ご家族で話をしていただいたり、地域等で開催される避難訓練や防災イベント等へご家族で参加していただいたりして防災意識を高めていただけると幸いです。



2学期の給食開始(9月2日)
9月1日「防災の日」にちなみヒートレスシチューでした

<生徒の振り返りから>

- 地震の影響で火事になってしまったときの、避難の仕方について知ることができました。体を低く避難するのがすごく重要で、口や鼻を押さえるのも大切だということを知りました。ハンカチは手を拭くだけでなく、災害のときにも役立つので、日頃から持っておくと良いと思いました。さらに美術室には避難のための装置があることを知ったので、また見に行こうと思いました。
- 最近自然災害が多数あり、鈴鹿市もいつ起きるかわからないので家にいるかもしれないし外や学校、友達、家族といるときに起こるかもしれないからこそ今回この授業で防災のことを学び、訓練の仕方を復習できました。これから自分の命は自分で守りいつ自然災害が起こってもパニックにならず落ち着いて行動をしたいと思いました。
- 今回の防災訓練を振り返ってこの夏休みでも大きな地震が熊本県で起こったし、これからも大きな地震(南海トラフ巨大地震)が起こる可能性が高いので自然災害は自分事だと思って考えなければいけないと思いました。鈴鹿市もいつ大きな地震が起こるかわからないので家や学校での備え、避難経路などを理解しておかなければならないと思いました。

